



No. 47

平成31年3月8日

発行 多治見市教育研究所

URL

<http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>

本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

巻頭言

信じる人がいる幸せ

南ヶ丘中学校 校長 岩井 利美

後期は、ノルウェーの作曲家・グリーグ(1843~1907)のピアノ協奏曲で始まりました。前期同様、友梨乃先生のピアノ演奏です。

CMやドラマの挿入曲としてポピュラーなこの曲は、劇的・ドラマチックな入り方で、感情を強く揺さぶります。気持ちの高ぶり、起伏……。

中学生にとって、これは特別なことではありません。思春期まっただ中を生きるこの子たちは、表面から見えなくても、心の内は絶えず揺れ動いているものです。毎日が、こんな起伏に富んだ出来事の連続です。私たち教師は、誰もが中学生であったのに、もうあのときの自分ではありません。我々には些細なことで軽微に受け流してしまうことが、そうできない。この先どうなるんだろうと不安になる。もちろん楽しいこと、興味をそそられることもドカンとやってくる。これが思春期世代です。

こんな摩訶不思議で、底知れぬ魅力をはらんだ子どもたちを前にして、私の勤務も37年が経過しようとしています。長かったか短かったか分かりませんが、気を抜けない新鮮な月日を過ごしてきました。たとえば、粘土で言うなら未だ乾燥していない、柔らかく可塑性に富んだ、如何様にも造形可能な姿です。だから、今できることは何でもしてやりたい思いにかき立てられて、子どもたちと向き合ってきました。

そんな思いから「本物にふれる会」として、いくつかの出会いの場をつくりました。先日は、「楽しい化石教室」として、岐阜市から元

校長先生に、多くの化石標本を学校へ持ってきていただき、一年生の授業を行いました。

実は、私自身こうした世界が大好きで、自分の興味関心からの発想だったかも知れません。しかし、この教室を取材・掲載してくれた新聞紙面に、一人の生徒の感想が記されていました。

「もともと化石に興味があったが、さらに興味を深められた。自分でもこれから調べたい。」

私はハッとしました。「そうか、これほど興味をもっている子がいてくれたんだな。」何だかうれしくなりました。

ずいぶん身勝手なことを述べましたが、心をとくめかせてくれた生徒の存在が、私の心にポツと灯をともしたのです。「ありがとう。」

最近「あなたは幸せですか？」と聞かれることがあります。なんと答えたらよいのでしょうか。今なら、生涯を通して初めて言えます。「幸せです」と。

ここに絶対的に信じる事が出来る子どもたちがいる。そして職員がいる。たとえ、だまされようが何だろうが、この子たちを前にしたとき、嘘偽りのないまっさらな自分で向き合うことが出来る。職員を前にしたとき、その思いを肯定的に受け止めることが出来る。

人は、信じる人がいるとき、はじめて幸せになれることをかみしめている今日この頃です。



平成30年度 研究報告会

平成31年2月18日に、平成30年度研究報告会を開催しました。多治見市内の先生方が執筆した教育実践論文の中で、最優秀賞を受賞された精華小学校の杉浦真弓教諭、小泉小学校の安藤宜尚教諭、優良賞を受賞された明和幼稚園の高木優里教諭に実践を発表していただきました。また、先進校視察のまとめとして、養正小学校の岡英樹教諭に発表していただきました。優れた実践から学ぶことができる貴重な機会となりました。

【最優秀賞】

今年度の教育実践論文には、新人の部27点、一般の部14点、合計41点の応募をいただきました。校種別では、幼稚園3点、小学校22点、中学校16点でした。

応募された実践論文からは、子どもの成長を願って日々実践を積み重ねてみえる先生方の様子が伝わってきました。

審査の結果、最優秀賞及び優秀賞に選ばれた作品の概要を以下に掲載します。全文は各学校に回覧されたり、論文集が発行されたりした際にご覧ください。

<生活科>

自立の基礎を養う生活科学習

～自分の願いをもち、進んで仲間と関わり合いながら、自分の成長に気付く姿をめざして～
多治見市立精華小学校 教諭 杉浦 真弓

児童が、仲間と関わり合いながら、自分の思いや考えを表現し、よりよい生活を創り出そうと主体的に活動することができる生活科学習を行うことで、**自分の成長に気付く**ことができる児童を育成したいと考えた。そこで、児童が**自分の願いをもつ導入・課題化の工夫**をすること、**仲間と関わり合う場を設定**すること、**自分の成長に気付く自己評価の場を設定**することを手立てとして講じ、実践を行った。

単元及び単位時間の学習の出口と、その出口に向かうにあたって自分の願いを明確にしたことにより、見通しをもって課題追究をする姿につながった。また、学習に取り組む活動形態を工夫し、進んで仲間と関わり合う環境をつくったことにより、自分の考えを深めるための仲間との高め合いの場が生まれ、よりよい考えづくりの基となった。さらに、よりよい考えを生み出したことで感じた学習における達成感や自分の成長への気付きが、気付きの質を高め、学びが深い学びへと転換され、**自立の基礎を養う**ことになりつつある。

<社会科>

よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習

～「つながる」をキーワードにした指導を通して～

多治見市立小泉小学校 安藤 宜尚

本研究は、子どもたちに社会的事象に対する**見方・考え方を働かせる**ための指導の在り方を追究し、実践した記録である。新しい時代に対応した新学習指導要領では、「何を知っているか」から「**知っている知識や技能を用いて、何ができるようになるのか**」といった、知識・技能の汎用性が重視されるようになった。社会科にあてはめて考えると、これは子どもたちが社会で起きている出来事に関心や問題意識を持ち、その出来事の価値や問題点を見付けたり、解決策を考えたりできるようになるだけではなく、さらにその解決策を実践しようとする態度まで育てるということである。このような姿は、子どもの意識が社会とつながるような授業の中で培うことができると考えた。子どもの意識が社会とつながるとは、社会的事象を自分に引き寄せて捉えるということである。そうなるためには、指導前の単元指導計画、教材づくり、学習活動、授業中の見届けなどの様々な段階で「**つながる**」を**キーワードにした手立て**が効果的であると考え、6年生の歴史分野の指導を通して実践に取り組んだ。子どもが**資料や仲間の意見、既習内容をつなげながら、社会的事象に対する見方・考え方を働かせて**いく様子に着目しながら本研究をまとめた。

【優秀賞】

＜体育科＞ よりよい動きを求めて「高め合う子」の育成を目指した体育の学習

～3年生における走・跳の運動 走り幅跳びの実践～

多治見市立精華小学校 教諭 安江美沙子

児童が運動の楽しさや喜びを味わうことは、体育の大きな目標である。体育の学習において楽しさや喜びを味わうためには、**技能の向上と仲間の関わり**が重要であると考えた。そこで本実践では、仲間と関わり合いながら活動し、技能の向上が実感できる体育科の学習を目指し、次の3点について実践を行った。1つ目は、課題に対する自分の考えや願いを具体的にもたせるための**導入・課題化の工夫**である。2つ目は、児童同士の教え合いを促進するための関わり合いを生み出す活動の場の設定や**関わり方の指導**である。3つ目は、高まりを実感できるようにするための**自己評価活動の工夫**である。

導入・課題化の工夫で単位時間の課題を明確にしたことにより、児童は目指す動きが具体的にイメージでき、技能や記録の向上につながった。また、活動形態を工夫したことにより、児童同士の声かけや教え合いが生まれ、関わり合いながら楽しく活動することができた。さらに、学び方を振り返る自己評価活動を継続して行うことで、自己の高まりを感じられる児童が育ってきている。

＜情報教育＞ プログラミング的思考力を育成する授業の提案

～他教科の学習と関連して～

多治見市立昭和小学校 教諭 土屋 大樹

本論文は平成32年度から「プログラミング教育」が実施されることを受けて、「**プログラミング的思考**」を高める学習を仕組むために、教科の指導内容とプログラミング教育のねらいを照らし合わせ授業実践を行ったものである。全国学力状況調査の結果から、目的や意図に応じて内容を明確にして詳しく書いたり、発表したりする力が弱いということがわかっている。こうした書いたり、発表したりする活動の中で、子どもたちに2つの基礎的な力が必要であると考えた。1つ目は「**思考を可視化すること**」、2つ目は「**思考を整理して、課題解決に向けての筋道や手順を考えること**」である。これらの基礎的な力を育むために、国語科や図画工作科と総合的な学習の時間を相互に関連付けながら授業実践を行った。その結果、思考を可視化するために活用した「**イメージマップ**」が有効だったこと、相手意識や目的意識を高める授業をし、プログラミング的思考を高めることができれば、国語科において、学習の到達度が向上する可能性があることが示唆された。

＜国語科＞

確かな表現力を育てる学習指導の在り方

～国語科における言語活動の充実を通して～

多治見市立昭和小学校 教諭 長江 理可

新学習指導要領の総則では、思考力・判断力・表現力等の能力を育むことや、主体的に学習に取り組む態度を養うこと等が示され、児童の発達段階を考慮して、言語活動を充実することが求められている。また、社会環境の変化による子どもたちの言語力の低下が指摘されていることから、各教科等において言語に関する能力の育成が求められている。国語の授業において、一単位時間の授業の中で、どのような知識や技能を身につけたらよりよい言語活動につながるのかを明確に示すことで、一単位、一単位の授業が言語活動につながっていることを実感できたと考え研究実践を行った。

授業実践では、「つきたい力やねらい」「既習事項」「児童の実態」から決めた**単元の貫く言語活動**を行うことや、**小集団追求**を行うことは、教師の指導の観点、児童に任せる**主体的な活動場**がより明確となり、**児童の学習意欲を喚起**するとともに**児童がねらいを達成**することにつながるようになった。

＜算数科＞ 「できた」「わかった」を実感し、算数を楽しいと思える算数学習
多治見市立南姫小学校 教諭 梶川 末紗衣

子どもたちの中では、「算数は難しい」、「算数は苦手」という声をよく聞く。そこで算数の学習内容が「できた」、「わかった」と感じながら勉強をしていけば、算数の楽しさを感じることができ、算数がもっと得意に、もっと好きになるのではないかと考えた。そのために、(1)児童の**意欲を高める導入の工夫**、(2)ペア活動を生かした**話し合い活動**、(3)児童の**思考を深めるための援助の工夫**についての実践を行った。実践(1)では、前時の復習や課題設定を丁寧に行い、身近なものを示すことで児童の意欲は高まることがわかった。実践(2)では、話し合い活動は、話形を示してペアで行うと確実な定着に繋がり、教師の問い返しは、全体で話し合っ、大事なポイントを確認することができるため、学習内容の理解を深められることがわかった。実践(3)では、ヒントコーナーは児童の実態に合わせ分かりやすくする必要があり、教室掲示はいつでも算数を振り返ることができ、算数に興味をもつ児童が増えることがわかった。以上より「できた」、「わかった」を実感できた。

＜全領域＞ 友達や保育者と一緒に園生活を楽しむために
～3歳児 Y男の姿を通して～
多治見市立明和幼稚園 高木 優里

3歳児の子どもにとって、幼稚園生活は初めての集団生活であり社会生活の第一歩でもある。大勢の友達や初めて出会う保育士との生活は、私たち大人が想像するより不安や戸惑いが大きく、集団生活に慣れるまでに時間がかかる子どももいる。

今年4月に施行された新幼稚園教育要領では、幼稚園教育の基本は、**幼児期の特性を踏まえ環境を通して行うものである**と述べている。さらに、重視する点として「**幼児期にふさわしい生活の展開**」「**遊びを通しての総合的な指導**」「**一人一人の発達の特性に応じた指導**」が挙げられている。こうしたことに留意し、一人一人の子どもの行動や思いに心を寄せつつ意図的・計画的に保育を展開することが、新幼稚園教育要領が示す「**幼児期の終わりまでに育てほしい姿**」につながっていくのではないかと考える。特に集団生活が始まったばかりの3歳児にとっては、その発達の特性を理解し、具体的な指導・援助の方法を探っていかなければならない。

＜図画工作科＞ 主体的に学び、豊かに発想し、自分らしくのびのびと表す子
～感動体験と高め合いによる授業づくり 2年生粘土題材を通して～
多治見市立精華小学校 教諭 飛弾 一成

「**発想する力**」は、子供達の人生を豊かにする。発想する力は0から新しいものを生み出す力だからである。そんな発想する力を育てるために図画工作は大きな役割を果たすと考える。さらに、発想力の原点になる「**感性**」は図画工作の学習だけでなく、児童を取り巻く環境の全てによって育まれる。しかし、昨今、図画工作の授業時数が減少していることや、児童の取り巻く環境が変化し、昔のように遊びながら見たり、触れたりして感じることや、つくる機会も少なくなってきた。そんな児童が、豊かに感じ、つくる喜びを味わいながら、自分らしさを発揮できるためには、主体的に学び、発想する力を高めていくことが必要であると考え。その力を図画工作の力で育てるためにはどうすればよいかを、本実践において検証する。

本稿は、2年生の図画工作の授業づくりを通して、豊かに発想して自分らしくのびのびと表す子を育てるために、**指導計画(題材)**、**願い**、**高め合い**をキーワードにして実践を進めた指導の記録である。

<外国語活動>

生き生きと学び続ける子どもを求めて

～「楽しい」「わかった」「できた」と感じ自ら学び続ける外国語学習～

多治見市立池田小学校 教諭 山田 麻衣子

8割の児童が外国語活動は「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と感じている。しかし、2割の児童は「楽しくない」と感じている。その理由として「英語で何を言っているのかわからないから」「英語で話すことが苦手」「何と言えいいかすぐに忘れてしまう」ということを挙げている。平成32年度から、5・6年生は教科として「英語」が年間70時間実施され、そしてその授業を受けた児童たちが中学校の英語に向かっていくことになる。中学に入る前から英語への苦手意識を持たせてしまわないためにも、**児童が進んで楽しく取り組むことができる授業**を作る必要がある。そのために、どのような指導の工夫があれば「楽しい」「わかった」「できた」という意識に変わるのかを、実践を積み重ねながら調べた。

本実践では、**単元指導計画の工夫、単位時間で楽しみながら表現の定着を図る授業課程の工夫、英語への壁をなくす工夫**を行うことで、それらが有効であったかの検証を行ったものである。

<算数科>

「数学的な見方・考え方」を働かせ、

困り感や曖昧さを表出しながら学びを深める子の育成

～問い返しや気付きがある交流活動と、学び方を工夫した楽しい数学的活動を通して～

多治見市立滝呂小学校 教諭 江崎 紀子

本研究は、**問い返しや気付き**がある交流活動と、学び方を工夫した楽しい数学的活動によって、「**数学的な見方・考え方**」を働かせ、**困り感や曖昧さ**を表出しながら学びを深める子の育成を願い実践した記録である。**問題解決の過程**が最も重要視されている今日的な課題と、本学級で「難しいことに挑戦してみる」と答えた児童が39.2%と低い実態から、**問題解決の過程**を楽しみながら学びを深める交流活動や学び方の工夫による授業改善がされるべきと捉え、本研究主題を設定した。本来児童の**困り感や曖昧さ**は安心して表出されるべきものである。研究内容(1)では、児童の**困り感や曖昧さ**を交流の入り口とし、**問い返しや気付き**によって「**数学的な見方・考え方**」が働く交流活動を意図的に位置付け実践した。研究内容(2)では、教科書の活用や学び方の工夫によって、算数の楽しさやよさを感じられる学習活動を追究した。**問題解決の過程**を振り返る中で、事象を**発展的・統合的**に捉える「**数学的な見方・考え方**」を育てよう実践した。算数が身の回りの生活にも役立つよさや楽しさを感じながら、学びを深める姿に着目し、本研究をまとめた。

<理科>

主体的な問題解決を通して日常生活や社会と学習内容を結びつけ

自信をもって探究する生徒を育てる理科指導の在り方

多治見市立笠原中学校 教諭 太田 鎮幸

この実践に取り組む前に、担任をしている第1学年の生徒31人に、全国学力・学習状況調査の質問紙の中から理科に関わる項目のアンケートを行った。その結果から、次の3点で弱さが見られた。それは、①理科の授業で自分の考えが妥当であるのか主体的に確かめること、②学習内容の理解や問題解決学習の基盤となる学び方が確実にできたと実感し自信をもつこと、③理科の授業の中で学習内容と日常生活や社会とを結びつけることの3点である。そこで本研究では、「**主体的な問題解決**が生まれるように指導・援助を工夫し、**日常生活や社会と学習内容をつなげ、学習内容や問題解決学習の基盤となる学び方の定着状況を見届ける**理科指導を行えば、主体的な問題解決を通して日常生活や社会と学習内容を結びつけ自信をもって探究する生徒が育つ」と考え、【力の世界】の単元で実践した。研究内容は、①**生徒が主体的に問題解決に取り組むための指導・援助の工夫**②**学習内容や問題解決学習の基盤となる学び方の定着状況を見届ける指導と評価の工夫**③**学習内容と日常生活や社会をつなぐ指導の工夫**である。

図書館教育賞の審査結果

平成30年度東濃地区学校図書館教育賞の審査結果及び各学校の実践をお知らせします。

【優秀賞】北栄小学校

「本でつながる」を図書館教育の目標とし、次のような活動を行いました。

◇ 本とつながる

- ・自らの読書生活を振り返る読書ファイルの活用

◇ 仲間とつながる

- ・異学年や図書委員による読み聞かせ
- ・全校児童によるおすすめ本紹介カードの作成



紹介カードを見て、その本を読んだらシールを貼ります。本を通してつながりが生まれます。

◇ 保護者・地域とつながる

- ・ボランティアによる本の修繕
- ・「ゆめの木」等の図書館環境整備

◇ 先生とつながる

- ・先生のおすすめ本の紹介カード展示

◇ 学習とつながる

- ・教科等の学習とつながる本の紹介
- ・学習作品の蓄積
- ・電子百科事典の活用



調べ学習などで、電子百科事典を活用しています。動画や音声もあり、学習の理解も深まります。

【奨励賞】滝呂小学校

「読書の楽しさを知り、進んで読んだり、調べたりする子」を図書館教育の目標とし、次のような活動を行いました。

◇ 読書習慣の確立

- ・朝読書・読み聞かせ・家族読書の実施
- ・ブックトーク等による読書啓発
- ・読書記録の蓄積

◇ 図書館利用の充実

- ・おすすめの本紹介
- ・図書館祭りの企画
- ・総合的な学習・教科と連携した図書館利用
- ・多治見市図書館との連携

・新聞の活用



新聞の特徴を学んだり、新聞を調べ学習に生かしたりできるように配備しています。



「〇〇な本が読みたい!」と思ったら、その色の足跡をたどっていくと、目的の本が見つかります。

【奨励賞】北陵中学校

「読書に親しみ、自分の夢に向かって希望が持てる生徒の育成」を図書館教育の目標とし、次のような活動を行いました。

◇ 読書に親しむことができる・学習に利用できる図書館

- ・見通しの良い書架・ゆっくりくつろいで読めるスペースの配置
- ・読み切り図書などの読書啓発
- ・朝読書の学級図書館開放
- ・「おすすめの本」・「話題の本」・「新刊の本」の掲示
- ・リクエスト本の募集
- ・貸出冊数が多い生徒の紹介



教科や総合的な学習の時間に本を活用したり、学習した成果を展示したりしています。

◇ 夢づくりに活用できる図書館

- ・総合的な学習の時間「夢づくり」と関連した夢コーナー・職業コーナーの設置
- ・「夢づくり」にかかわるブックトークの実施
- ・各教科での図書館利用の啓発



夢に向かって努力してきた人の話、偉人の名言集など、夢を後押ししてくれる本のコーナーを設置しています。